

！雨と土砂災害の関係を知りましょう

土砂災害の多くは、水（降雨、地下水）が関与しています。自宅で雨量を計測する習慣をつけましょう。なお、カップ酒の瓶を使うと風で倒れにくく便利です。

雨が降り始めたら、
地面で跳ねた雨が入らない高さで平らな場所に、
カップ酒の瓶などの寸胴の容器を設置する。



！行政からの情報に注意しましょう

土砂災害や洪水が発生する可能性が高くなると、防災気象情報の他に行政から次のような情報が発表されることがあります。これら情報が発表された場合には、すぐに避難を開始してください。

土砂災害警戒情報・・・・・・地域の雨量などを考慮して、土砂災害発生の危険性が高まった地域に対して、気象台と県から市町村単位で発表される情報

避難勧告・避難指示・・・・・・災害によって被害を受ける可能性の高い地域の住民に対して、市町村から発表される情報

！前ぶれ（予兆現象）に注意しましょう

土砂災害が発生する前には、予兆現象が見られることがあります。大雨が降ったときには、周りの様子に注意して、次のような状況を発見したら、直ちに避難を開始してください。

がけ崩れの発生前には・・・



がけに割れ目が見える
がけから水が湧き出ている
がけから小石がぱらぱら落ちてくる

土石流の発生前には・・・



急に川の流れが濁り、流木が混ざっている
雨が降り続いているのに、川の水位が下がる
山鳴りがする

地すべりの発生前には・・・



沢や井戸の水が濁る
地面にひび割れができる
斜面から水が噴き出す

この他にも・・・

- 地鳴り、木根のちぎれる音、岩の割れる音などがする
- ものの腐ったようなにおい（腐葉土、下肥のにおい）がする
- 小動物が異常行動（騒ぐなど）をとるなど

野田十一会自主避難計画

野田十一会は、住民全員が雨の量や周辺の様子に注意し、地域で避難開始を判断して住民全員で避難する仕組みをつくりました。以下の項目をみんなで実践しましょう。

① 日頃からやっておくこと

- 裏面の防災マップを参考に、地域内の危険箇所や、大雨が降ると見られる予兆現象、いざというときの避難場所（比較的安全と思われる建物）、避難経路、住民間の連絡方法を確認しておきましょう。
- カップ酒の瓶などを用いて、雨量を計測する習慣をつけておきましょう。（1時間に20mm、連続雨量で100mmの雨で土砂災害が起こりやすいと言われています。）

② 雨が降り始めたら、自宅周辺の状況に注意を払う

- 土砂災害が起こる目安の雨が降っていないか、家の外の様子を確認しましょう。
- 避難開始の目安となる現象が起きていないか、自宅周辺の様子を確認しましょう。



③ 避難開始の目安となる現象を発見したら、役員に報告して、すぐに避難する

- 自主防災会の役員等に報告しましょう。
- 身の安全を第一に考えて、避難を開始しましょう。



避難開始の目安となる現象

以下のような状況になったら、自主避難を開始してください。

1 下水の水位が上から30cmまで達した場合

2 がけで予兆現象が確認された場合

※裏表紙の前ぶれ（予兆現象）をご確認ください。

いざというときの避難場所

周辺の様子に注意して、身の安全を第一に考えた対応をとってください。

1 小佐野コミュニティ会館へ避難

2 がけからできるだけ離れた建物の2階へ避難

！災害情報サービスをご活用ください

釜石災害 110番 ☎ 0800-8003199（通話料無料） ※岩手県内の固定電話・携帯電話・PHSから利用可能です。

市内の雨量情報・防災行政無線の放送内容を電話で確認できます。

※この計画は平成26年10～12月に実施した「洪水・土砂災害に対する警戒避難体制の整備支援事業」を通じて、野田十一会として検討したものであります。

釜石市 野田地区

洪水・土砂災害緊急避難地図

野田十一会

現在の技術では正確な雨量予測や災害発生地の特定が難しいため、避難勧告等に依存しうまく、**地域住民自らで危険に気づき、いざというときに避難の判断につなげる**ことが大切です。

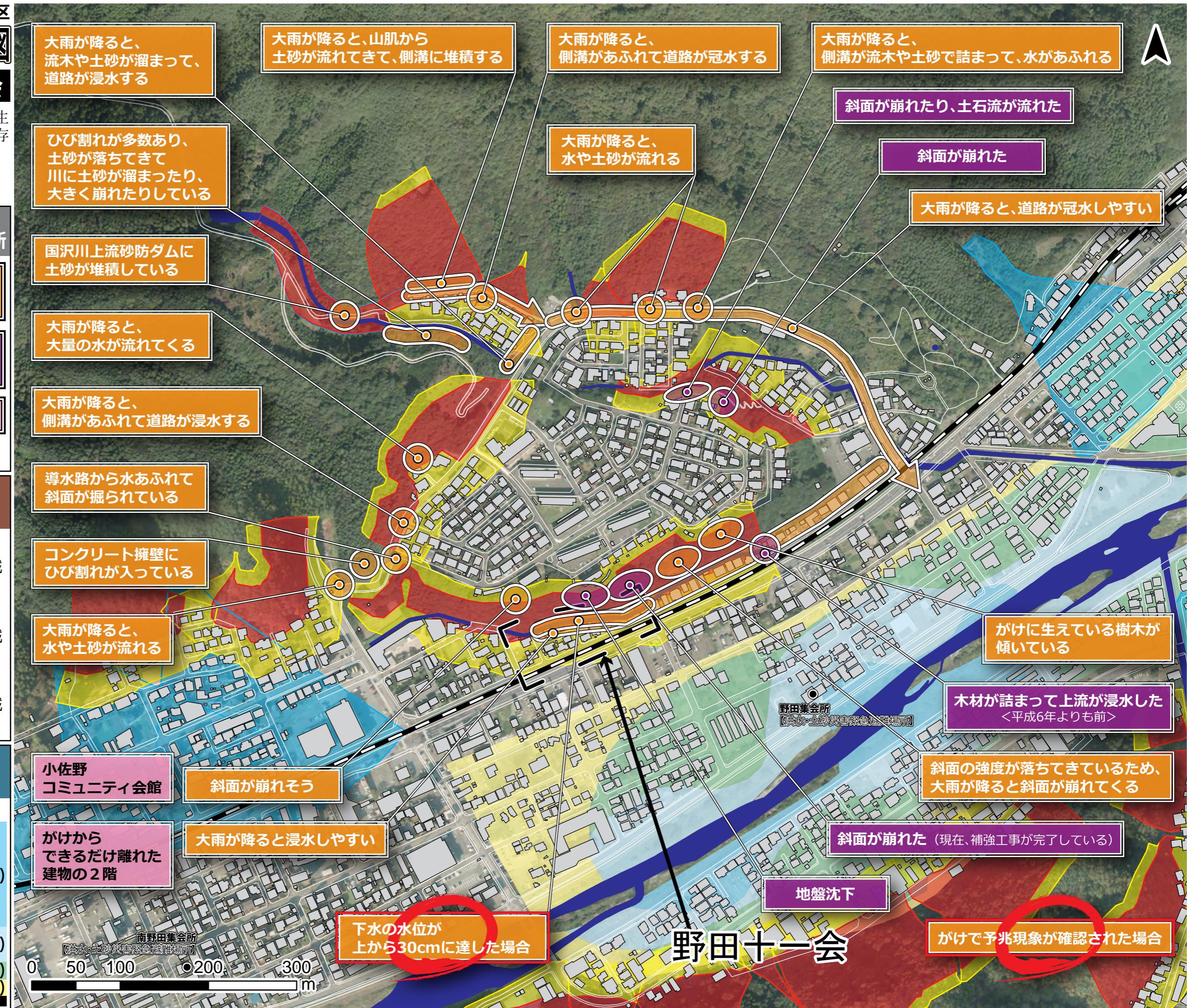
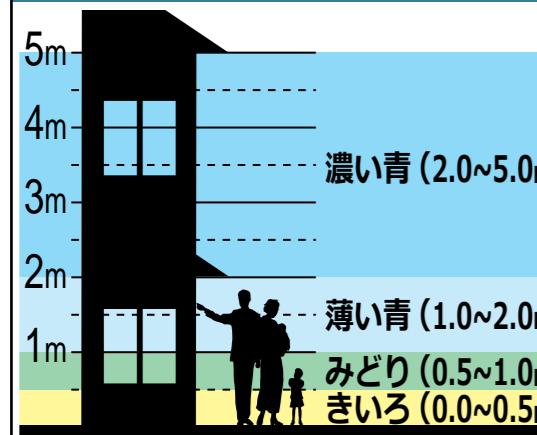
住民懇談会で把握した 地域内の危険箇所および避難場所

- ➡ 降雨時に確認される**予兆現象** および**危険箇所**
- ➡ 過去に**災害が発生した場所** および**危険だった場所**
- ➡ **比較的安全**と思われる**建物**
- **避難開始の目安**となる**現象**

土砂災害の危険性 (岩手県砂防基礎調査結果に基づく)

- 土砂災害の危険性が**特に高い**と考えられる区域
(急傾斜地の崩壊・土石流)
- 土砂災害の危険性が**高い**と考えられる区域
(急傾斜地の崩壊)
- 土砂災害の危険性が**高い**と考えられる区域
(土石流)

洪水ハザードマップ (甲子川浸水想定区域図に基づく)



この地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号 平26情使、第624号)